

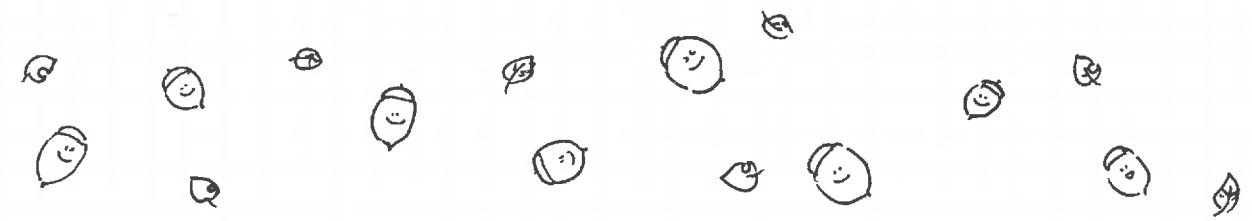


NO.24. A7.10.14 (Tue)

朝の自由遊びの時に、「園長先生！池にボールが落ちちゃってさ〜」と、ふじ組の男の子が職員室に来てくれました。「知らせてくれてありがとうね。じゃ〜」と私が長目の竹の棒を取りに行くと、(子)「あ〜これでやればいいんだね。ボクがやるよ！(出来るよ)」と、勇んで池へ行て、棒を手に吊り橋から突っこうとしてくれるんですが…。吊り橋が揺れて、ボールにピンポイントで(棒が)当たらないどころか、どんどん奥にいったしまい苦戦！
見ている子ども達も、「もうちょっと、こっち！」「こっちでどっち？」「こっちで、あ〜お山の方！」と子ども達なりに懸命に応援したり、アドバイスしてくれ、ボールをやっと岸側に移動する事が出来ました。

すると岸の方では、誰が言うのではなくフラフープを持って待ち構えていた子が居てくれ、フラフープの中に囲み、無事とる事が出来ました。
なんという円滑な連携プレー！極めつけは吊り橋上で(棒と)取ってくれた子が、「一件落着いっ」と誇らし気に大満足の表情で云う。
それを周りの子も笑顔で頷き合うという、充実感溢れる光景で！！

「池のボールを取る」という日常ありがちな何気ない事象ではありますが、困難やアクシデントに対して、自分達で工夫し、その過程で自分出来る事を見出し、互いに協力し合って解決していく。この一連の協働作業の中にはコミュニケーション力、想像力を含んだ総合的な社会力が育っていると思うんです。



そしてこの力は、正に「生きる力」そのもので、これからの人生において、大きな糧になっていく事は間違いないな〜と、そこに携った子ども達の誇らし気な輝く笑顔を嬉しく見守りました。

